

国際セミナー「鉄道整備と沿線開発」
日笠弥三郎 国土交通省 大臣官房審議官（鉄道） 来賓挨拶

Selamat pagi. Nama saya Hikasa dari MLIT, Japan.

本日、ヘル運輸省鉄道総局鉄道インフラ局長、石井大使をはじめとする多くの皆様のご出席のもと、運輸総合研究所主催による「インドネシアにおける鉄道整備と沿線開発に関する国際セミナー」が盛大に開催されますこと、心からお慶び申し上げます。

インドネシアは世界第4位である人口約2.5億人を抱え、実質GDP成長率が5%台と顕著な経済成長を遂げておられます。特にここジャカルタは、MRTや空港鉄道等公共交通や歩道の整備、高層ビルの建設等多くのインフラ整備が進められており、私自身この活気のある街の様子を目にし、その発展ぶりを改めて実感したところです。

我が国とインドネシアは古くから強固な関係に基づきまして、鉄道におきましては、1970年代からジャワ島北幹線鉄道の軌道の修復や複線化・電化、またジャカルタ市内の通勤鉄道の近代化等様々な支援を行ってきました。

特にジャカルタにおきましては、2000年代初めよりMRT南北線に対して継続的に支援を行い、昨年3月に無事に開業することができました。

昨年末、国土交通省の赤羽大臣のジャカルタ訪問の際、また昨日、本セミナー主催の宿利会長とともにMRTに乗車をいたしました。騒音や振動が少なく、とても快適でございました。また利用者数も1日あたり、もう少しで10万人近くと順調に伸びており、大変うれしく思います。

MRTは都市内の人や交通の流れ、そして文化を変える大きなトリガーであり、日本政府・国土交通省としては、引き続き南北線の北部延伸や東西線の整備についても積極的に協力したいと思っております。

また、都市開発の目指す将来像に目を向けますと、国連の掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」にもあるように、持続性の確保は喫緊の政策課題だと思います。都市のさらなる発展のためには、新線のみならず、鉄道や他交通モードとのスムーズな接続、鉄道駅を軸とした沿線開発、

まさに今回のテーマでございますけれど、公共交通へのシフトを促し、公共交通をベースとした持続可能な都市の実現を目指していく必要があります。

こういった意味でも、本日、政策研究大学院大学の森地教授、インドネシア運輸省のウミヤトゥン研究開発庁長官、ロビー計画局長、スタンプト教授、日比野先生、専門家の皆様のご参加の下開催される本日のセミナーは、ジャカルタにおける鉄道整備と沿線開発を切り口として、将来に向けた政策課題について日インドネシアの関係者が共に考え議論する良い機会となると確信しております。

本セミナーにおきまして、有意義な意見交換が行われ、日インドネシア両国の鉄道分野における協力関係がさらに強固になることを期待いたしまして、私の挨拶といたします。ありがとうございました。

以 上